

| | | | | | |
|--|----------------------------------|-----|-------|------|----|
| 科目名 | 和声法2 | | 科目コード | 1915 | |
| 開講学科 | 音楽学科 | 単位数 | 4 | 形態 | 演習 |
| 教員名 | 下石坂徹・徳備康純 | | | | |
| 授業の目的及びテーマ | | | | | |
| 「和声法2」では「和声法1」の延長線上の内容として、借用和音・近親転調・副七の和音などを学ぶ。 | | | | | |
| 授業概要 | | | | | |
| <p>(はじめに)</p> <p>「和声法1」では、三和音の基本形、第1転回形、第2転回形の正しい配置と連結、さらに属七の和音の転回形まで学びました。ここまでで一応、和声法の初期段階は修了したと考えて結構です。</p> <p>「和声法2」では、中期段階として、音階音から作られる音階固有の三和音以外の和音を使っていく方法を学びます。新しい和音が加わり、音の操作もむずかしくなっていきますが、和声表現が拡大され、あなたの和声法能力も格段に進むでしょう。がんばってください。</p> <p>(学習の要点)</p> <p>「和声法2」で学ぶ項目は、以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Ⅱ度の七の和音 ・借用和音〔1〕と〔2〕 ・非和声音 ・近親転調 <p>これらの項目の中で、大きな山は借用和音〔2〕と近親転調です。借用和音〔2〕では、ナポリの6、ドリアのⅣ及び、他調の属七の和音を借用して使うというものです。近親転調では、文字通り近親調への転調技法を学びます。2年間でここまで習得することは容易ではありませんが、みなさんには是非期待したいところです。</p> | | | | | |
| 授業計画 | | | | | |
| <p>第1回：「和声法1(三和音および、属七の和音まで)」の復習</p> <p>第2回：Ⅱ度の七の和音の演習・指導</p> <p>第3回：Ⅱ度の七の和音の演習・指導</p> <p>第4回：借用和音〔1〕同主短調からの借用和音の演習・指導</p> <p>第5回：借用和音〔1〕ドッペル・ドミナント和音の演習・指導</p> <p>第6回：借用和音〔1〕ドッペル・ドミナント和音の演習・指導</p> <p>第7回：借用和音〔1〕ナポリの6の和音の演習・指導</p> <p>第8回：非和声音(補助音、経過音、掛留音)の演習・指導</p> <p>第9回：非和声音(倚音、先取音、保続音)の演習・指導</p> <p>第10回：借用和音〔2〕副属七和音の演習・指導</p> <p>第11回：借用和音〔2〕副属七和音の演習・指導</p> <p>第12回：近親転調(ディアトニック転調)の演習・指導</p> <p>第13回：近親転調(クロマティック転調)の演習・指導</p> <p>第14回：属九の和音の演習・指導</p> <p>第15回：副七の和音の演習・指導</p> | | | | | |
| テキスト | WEB教材「和声法Ⅱ」セツ矢博資 著 (大阪芸術大学配信) | | 参考文献 | | |
| 評価方法: | | | | | |
| <p>通信授業は提出課題5件と実技試験を以って評価する。</p> <p>面接授業は受講態度、授業中提出物などにより総合的に評価する。</p> | | | | | |